

博士論文

小学校・幼稚園教師の指導態度の研究
—受容的指導態度と要求的指導態度—

2014年度

大学院心理学研究科臨床心理学専攻

嶋野重行

東京成徳大学

要約

本研究の目的は、幼稚園と小学校の教師の指導態度と子どもの関係を検討し、相互の教育的な影響について検討することにある。そのため教師の受容的（A）態度と要求的（D）態度の観点から学校教育の場における子どもとの心理的な影響について考察した。

小学校においては、児童認知による教師態度から教師をADタイプに類型化し、その類型化された教師と児童の心理的要因を検討した。

幼稚園においては教師の自己評価によって、AD指導態度を規定し、「気になる子ども」への支援の関連を検討した。

1 教師の指導態度についての文献的研究（研究1）

教師の受容的（A）態度と要求的（D）態度についての研究を俯瞰し、教師の指導態度の概念とその教育的機能について考察した。

2 小学校教師のAD指導態度尺度の作成（研究2）

小学校教師のAD指導態度尺度を作成した。

3 小学校教師のAD指導態度と教育的機能との関連（研究3）

(1) 小学校教師のAD指導態度と児童との心理的距離の関係

小学校教師の受容的（A）指導態度・要求的（D）指導態度が及ぼす子どもの心理的距離について検討した。児童が認知する教師の受容態度の度合いによって心理的距離が左右されることが認められた。

(2) 小学校教師のAD指導態度と「問題行動」認知との関係

小学校教師が認知する児童の「問題行動」について明らかにし、それが、教師の指導態度によって、問題性を強く認知しているか、低く認知しているかについて検討した。

A型教師とD型教師の間に問題性に対する評価に差がみられた。

(3) 小学校教師の AD 指導態度と学校ストレス、学校不適応感との関係

教師に対し受容的 (A) 態度と認知している児童と要求的 (D) 態度と認知している児童の学校ストレスと学校不適応感について検討した。

その結果、教師の受容的 (A) 態度は児童のストレスや不適応感を軽減する機能があることが考察された。

(4) 小学校教師の AD 指導態度と self-esteem との関係

教師の AD 指導態度と児童の self-esteem の関係について検討した。その結果、児童にとって重要な他者である教師から受容され、尊重されることは、肯定的な自己像を形成する上で大切と考えられた。

4 幼稚園教師の AD 指導態度尺度の作成 (研究 4)

幼稚園教師の幼児に対する受容的 (A) 態度および要求的 (D) 態度を測定するための AD 尺度 (自記式) を作成した。

(1) 教育実習生の調査による項目の選定

短期大学生が幼稚園の教育実習で「気になる子ども」への学級担任の支援行動から教師の受容的 (A) 態度と要求的 (D) 態度の候補となる項目を選定した。

(2) 幼稚園教師の調査による項目の選定

教育実習生の調査によって、AD 尺度の候補項目として選定された項目をもとに、幼稚園教師の AD 指導態度尺度 (自記式) を作成した。

5 幼稚園教師の AD 指導態度と「気になる子ども」の認知との関係 (研究 5)

(1) 幼稚園における「気になる子ども」の認知: 「気になる子どもチェックリスト」の作成

幼稚園において教師から「気になる子ども」と認知される子どもの存在を明らかにする「気になる子どもチェックリスト」が作成された。

(2) 幼稚園教師の AD 指導態度と「気になる子ども」の認知との関係

幼稚園において教師から「気になる子ども」と認知される子どもに対する教師の支援行動と AD 指導態度との関連について、①トラブル行動（反社会的行動）と AD 指導態度の関連について、②非社会的行動と AD 指導態度の関連について、③自閉的行動と AD 指導態度の関連について、④多動的行動と AD 指導態度の関連について、⑤気になる子どもの行動特徴と教師の AD 指導態度の関連について、それぞれ検討された。

その結果、非社会的行動と自閉的行動を示す子どもに対しては、教師が正の方向、つまり受容的（A）態度でかかわりをしていることが分かった。また、自閉的行動を示す子どもに対しては、教師が正の方向で要求的（D）態度でのかかわりがあることが分かった。特に自閉的な傾向のある「気になる子ども」の認知に対して、教師は受容的（A）態度、要求的（D）態度を意識した丁寧なかかわり方をする関係にあることが分かった。

本研究において、小学校教師、幼稚園教師の指導態度として受容的（A）態度と要求的（D）態度があり、それは子どもの育つ心理に影響を与えていることが明らかになった。そして、このことは学校教育において、教師自身が自分の態度を自覚的にとらえて子どもとかかわっていくことが重要であると考えられた。

今後、教育関係者が学校教育のあり方を考えるとき、子どもと教師

の関係をとらえ、子どもにのみ視点をあてるのではなく、子どもへの心理的な影響を及ぼしている教師の指導態度にも視点を当てる必要があると考えられた。それが、保育・教育を充実・発展させていく上で、大切なことであると考えられた。